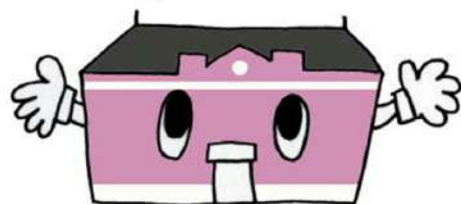




“ジュウテンケン”って、 なに？



ぼくといっしょに勉強しよう！



令和7年11月

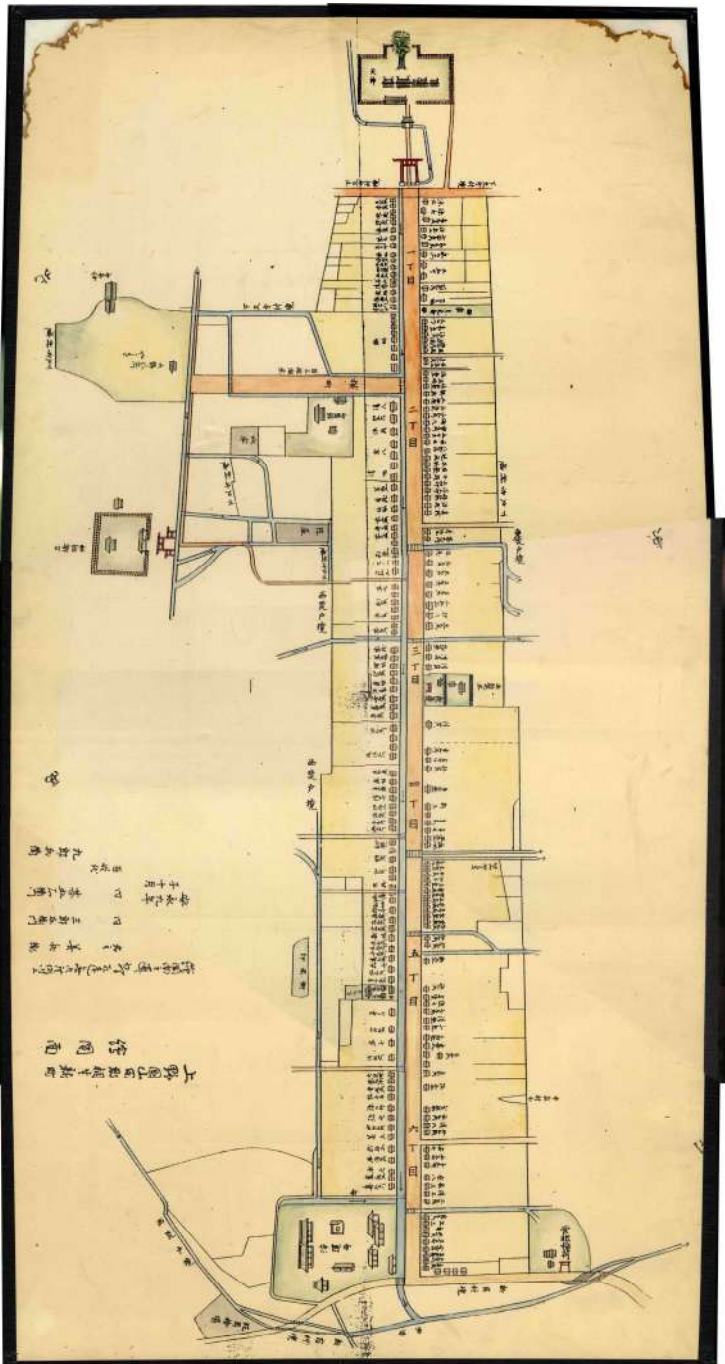
桐生市近代化遺産 絹然記念館

(桐生市 日本遺産活用室)

いま のこ きりゅう しんまち まちな 今も残る 桐生新町の町並み

いま ほんちょういっちょう め ろくちょう め よこやまちょう てんまんぐう ち いき きりゅう しんまち
今の本町一丁目から六丁目と横山町、天満宮をあわせた地域を、かつては「桐生新町」と呼んでいました。明治22年(1889)に近隣の村と合併して「桐生町」となりました。
きりゅう しんまち よ きりゅう おりもの さか ちく おりものかんけい こう ば
桐生新町と呼ばれていたころから、桐生は織物が盛んで、この地区にも織物関係の工場などが建ち並んでいました。

じゅうでんげん ち く いま きりゅう しんまちとう じ たんざくじょう しき ち わ おも え どころ き しょう わ しょ き
重伝建地区には、今も桐生新町当時の短冊状の敷地割りや、主に江戸後期から昭和初期に建てられた貴重な建物が多く残っています。



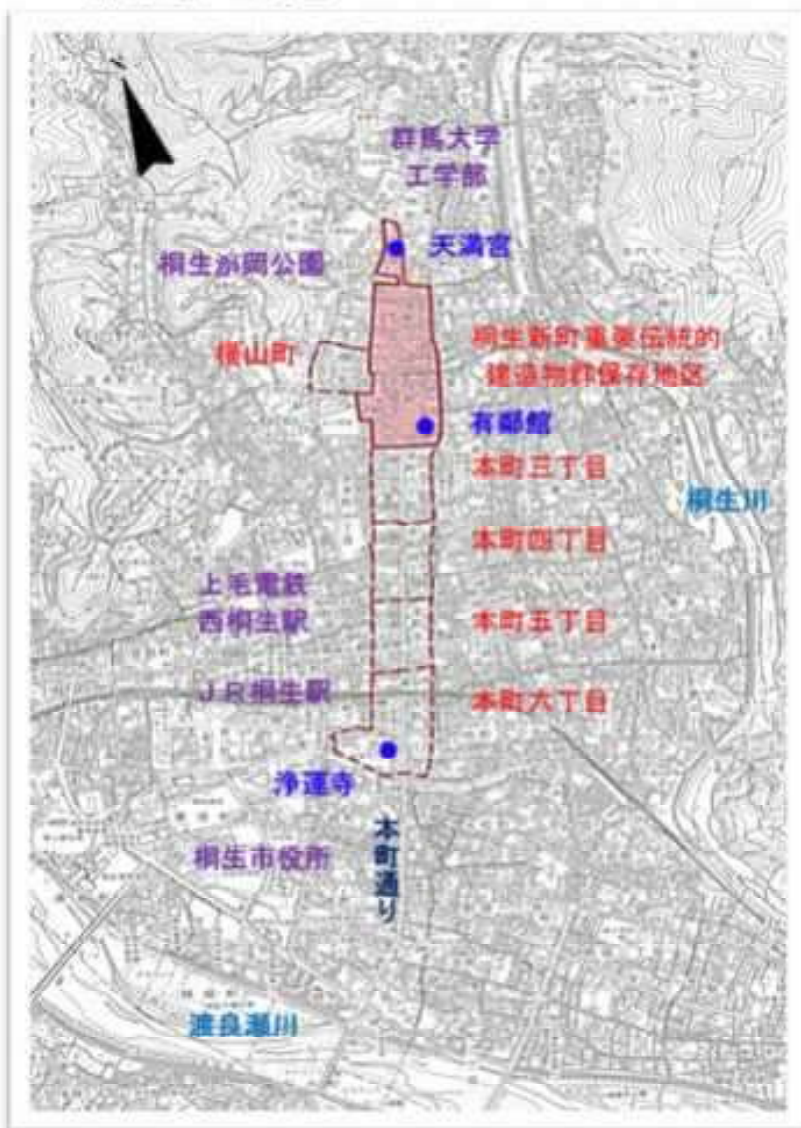
たいしょうしょ き ほんちょういっちょう め
大正初期の本町一丁目



うえ しゃしん おな い ち と
上の写真とほぼ同じ位置から撮った
いま ほんちょういっちょう め
今の本町一丁目。
どう ろ みぎがわ たてもの おな
道路の右側の建物は、ほぼ同じ。

重伝建の範囲

■保存地区の位置



左の地図で、赤い実線で囲まれたところが重伝建に選定された地域です。



昭和40年頃、本町通りでは、通りに面した建物のデザインを統一した地域もありました。

どうして赤い実線のところだけが選定されたの？



ケンネン君

いい質問ね。今から50年くらい前(昭和40年頃)、本町三丁目から六丁目では、商店街を近代化するために道路を広げる工事が行われたの。

そして、お店の建物をそろえたり、アーケードをつくったりして、とても近代的ですてきな姿に生まれ変わったの。

そのとき、本町一・二丁目は、道路を広げる工事が行われなかったんだって。でも、そのために昔の貴重な建物がたくさん残ったの。そこで、桐生市はこれらの貴重な建物を保存して、後世に伝えていこうと「重伝建地区」に選定されたのよ。



せんもんかのお姉さん



ところで、おねえさん。
「ジュウデンケン」って、何？

正式にはね、
「**重要伝統的建造物群保存地区**」っていうの。
長いでしょう。
だから、略して「重伝建」と呼んでいるのよ。



「ジュウデンケン」の「ジュウ」って、数字の
「10」じゃないんだね。
10コじゃないとすると、「**伝統的建造物**」って
いくつあるの？

細かく言うと、とってもたくさんあるの。同じ敷地内でも、
主屋、蔵、工場など別々に指定するのね。なので、建物だけ
で180件あるの。そのほかに、祠とか井戸とか門など
「**工作物**」っていうんだけど、それが173件。それから樹木
なども対象になるので、それが8件。 どう？ 驚いた？



10伝建でなく、360伝建だった！

重伝建地区を、歩いてみたいな。

それじゃあ、重伝建地区の主な建物を紹介していくわね。
はじめは、「矢野本店」とその蔵を活用した「有隣館」よ。



やのほんてん 矢野本店

建築年：店蔵・明治初期、 店舗・大正5年(1916)

(市指定重要文化財)

矢野本店は、享保2年(1717)、創業者である初代矢野久左衛門が近江国蒲生郡日野町から桐生にやってきて、寛延2年(1749)二代目久左衛門がこの地に店舗を構えました。

清酒・味噌・醤油の醸造業のほか質商などを営み、明治期以降は荒物・薬種・染料・呉服・銘茶部門などを扱うようになりました。

現在の店舗は大正5年に建築されました。出桁造で二階正面には格子戸が残り、商家(町屋)の構えとなっています。

まちや 町屋・(町家)

町にある家。特に商家。道に面して並び、間口が狭くて奥行きが深いものが多い。



だしげたづくり 出桁造

軒を深く前面に張り出した構造。そうした立派な軒が商店の格を示していた。





こうし
格子って、かっこいいでしょ。

ねえ、知ってる？ 格子は、
しよくぎよう 職業によって 糸屋格子とか、
おちや や ごうし 御茶屋格子なんて呼ばれていて、
かたち くふう 形も工夫されているんだって。

ここは昔 お酒をつくっていたので、酒屋格子
といって、太く 丈夫な木材を組み合わせてい
るの。酒樽を積み上げたり、大型の酒造用具を
を出し入れするため、頑丈な造りにしているそうよ。



うわあ！ おもしろい階段だね。



木の箱を積み上げたような形なの
で、「箱階段」と呼ばれているの。
横に引き出しがついていて、たんす
としても利用できるのよ。
2階建てが建てられるようになった
明治期の町屋で多く見られるわ。



あれは何？



あれは「杉玉」(又は「酒林」と言っ
て、造り酒屋さんの軒先につるされるの。
緑の杉玉がつるされると、「新酒がで
きました」という意味なんだって。



「有鄰」って、むかし矢野商店が
つくっていたおしょうゆの名前だ
ったんだって！



きゅう や の くらぐん
旧 矢野蔵群
 ゆうりんかん
(有鄰館)

建築年:江戸末期～大正中期
 (市指定重要文化財)

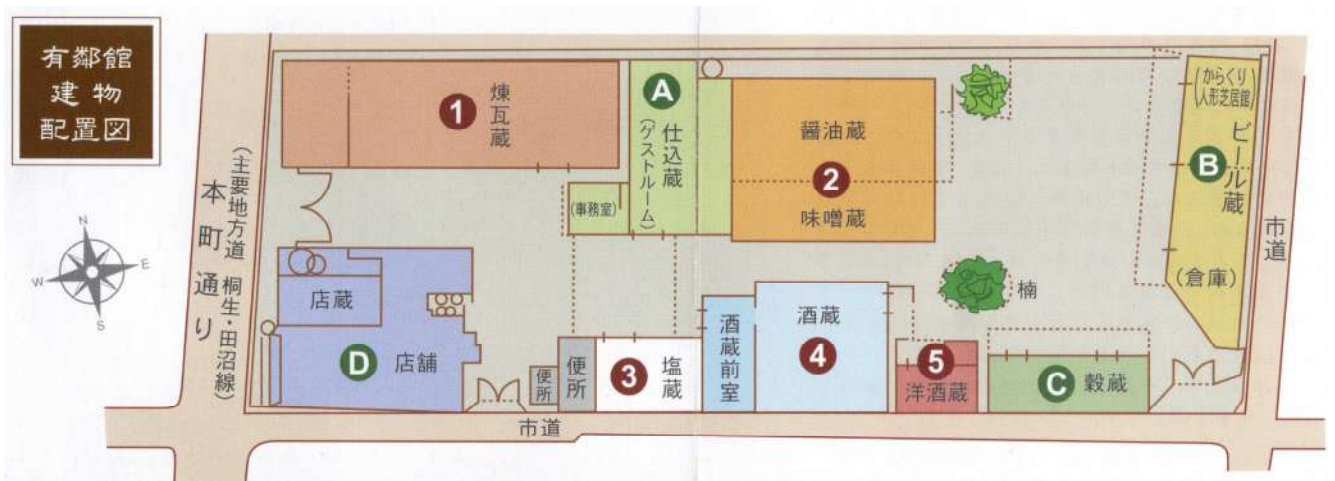
旧矢野蔵群は、清酒・味噌・醤油などの醸造業が営まれていたころの建物で、江戸から大正期に建築されました。

煉瓦蔵の倉庫は市内最大規模の煉瓦造の建物で、南側に設けられているアーチ状の石組みの入口や木造の和小屋組みは当初のまま残っています。

旧矢野蔵群は、年代的には新しいものの、これほどの建物が同一敷地内に存在する例は桐生市内に見ることができず、町並み保存の拠点として注目されています。また、煉瓦や土・板・漆喰など景観の異なる壁体や、太さや形態が異なる柱などが独特の空間を演出し、コンサートやギャラリーなど様々に活用されています。



れん が ぐら
 煉瓦蔵のアーチ状の
 いし ぐ
 石組みの入口

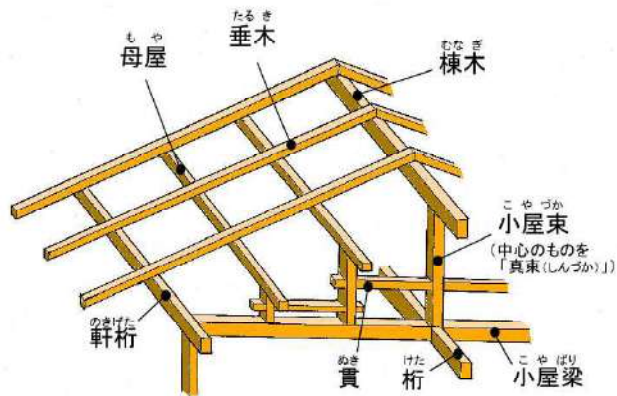


わこやぐ 和小屋組み

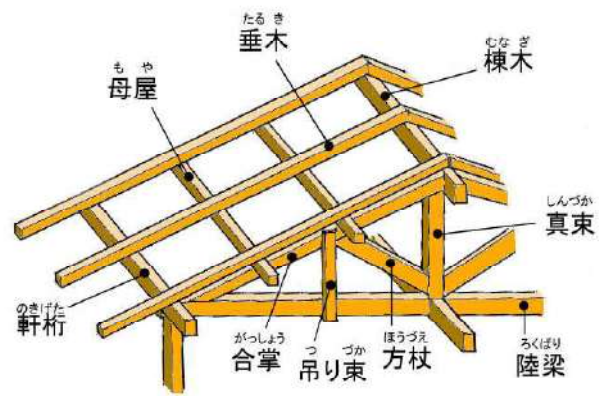
「小屋組み」は、屋根の構造主体となる骨組みのこと。組立方法から、和小屋組みと洋小屋組みに大別されます。

和小屋組みは、小屋梁に屋根勾配に応じた小屋束を載せ、棟木及び母屋をかけ渡し、垂木を取り付ける方式を言います。切妻屋根、寄棟屋根など梁間の小さい建物に用いられます。

洋小屋組みは、比較的細い部材を三角形に組んでトラスを構成する方式です。屋根荷重や風にも強い構造です。



わこやぐ
和小屋組み



ようこやぐ
洋小屋組み



ねえ、このレンガを見て。
何か印が付いているで
しょう。これは、この
レンガをつくった会社の
印なのよ。



へえー、そうなんだ。
花のようなマークだね。



(大通り沿いのレンガを見てね。)

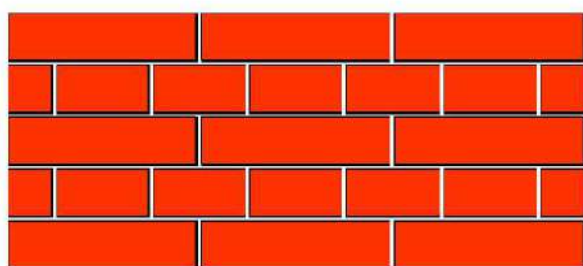
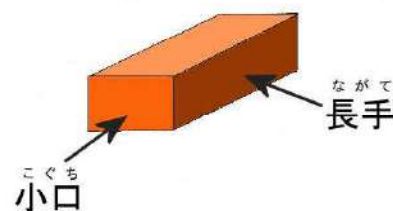
レンガの積み方

レンガを平らに置いたとき、長細く見える側面を「長手」、やや正方形に見える側面を「小口」と呼びます。

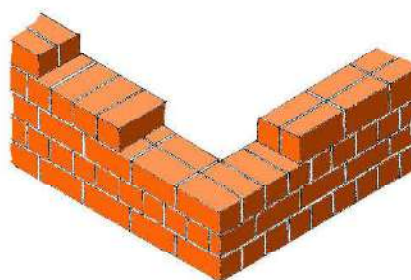
レンガの長手だけの段、小口だけの段と一段おきに積む方法を「イギリス積み」と言います。

レンガの長手と小口を交互に積む方法を「フランス積み」と言います。

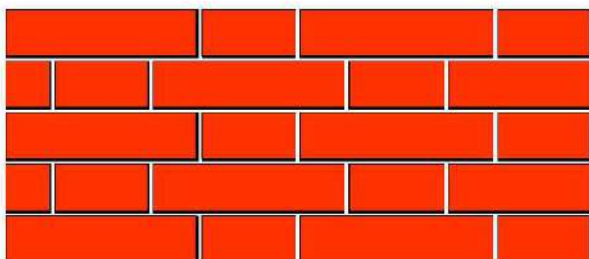
そのほかに、「小口積み」「長手積み」などの積み方があります。



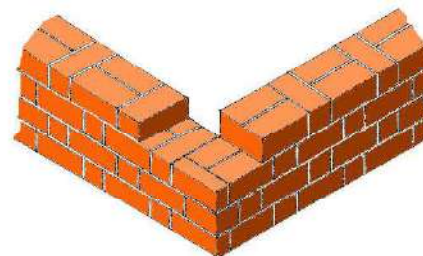
イギリス積み



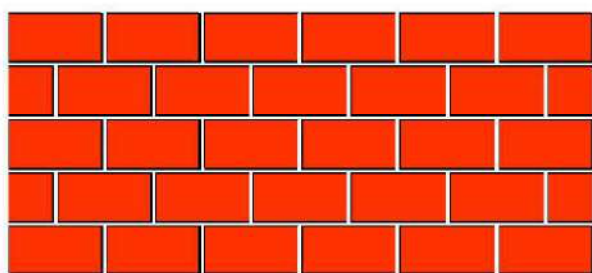
イギリス積み



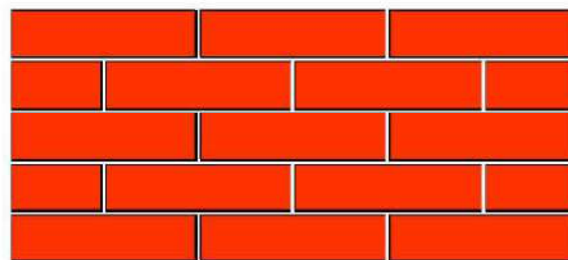
フランス積み



フランス積み



小口積み



長手積み

たまがみやっきょく
玉上薬局

建築年：店蔵・文化3年(1806)

玉上家は、桐生新町草創期にこの地に移住し、家を構えたと言われています。玉善織と名付けて販売し、織物業を営んでいました。後に、織物業から薬種業を営み、現在の玉上薬局となりました。

この建造物は、防火を強く意識し、土蔵造となっています。また、屋根の形状が妻入りと平入りの接続された形式となっており、下屋(※)が設けられています。この形式は「恵比寿造」と称して伝えられています。現存する幕末の町屋として貴重な建物です。

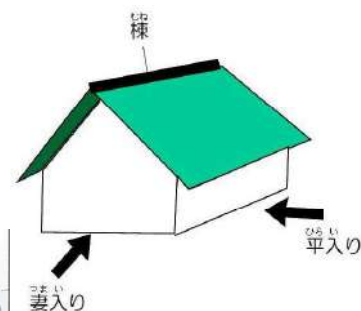
※ 下屋…母屋から差し出して作られた屋根。



つまい ひらい
妻入りと平入り

棟(屋根の頂上で水平な部分)と直角の面を「妻」、平行の面を「平」といい、妻に入口のある建物を「妻入り」、平に入口のある建物を「平入り」と言います。

桐生新町では、通りに面する戸建ての建物は平入りが多く見られます。



旧 書上商店（花のにしはら）

建築年：店舗・明治前期

書上家は、買継商人としてこの地に店を構え、江戸・京都に販路を拡大していきました。明治期には、近隣の足利・佐野をはじめ伊勢崎・館林にも出張所を新設し、一躍、両毛織物買継商の第一を占めるようになり、明治29年(1896)横浜支店、明治39年(1906)には上海にまで支店を開設し、「桐生織物」の販路拡大を図りました。

昭和28年頃から昭和30年にかけて、作家坂口安吾が書上家の一角を借り、作家活動を行い、この地で生涯を終えています。

昭和36年(1961)頃、初代当主が花屋を開業し、現在に至ります。



坂口安吾 千日往還の碑

坂口安吾(明治39年～昭和30年)は、有名な小説家です。昭和27年(1952)2月から三年弱の期間、書上邸の店裏の一軒家を借りて住んでいました。

そのことを記念して、地元有志により「千日往還の碑」が建てられました。碑の裏面には、当時の様子が書かれています。



坂口 安吾
(1906～1955)



そ が け じゅうたく 曾我家住宅

建築年：明治後期頃
(国登録有形文化財)

曾我家の初代助松は石川県鹿島郡の生まれで、明治27年(1894)に桐生に来往し、生糸商に奉公しながら商売を習得。その後、糸相場で財をなして現在地と建物を大正6年(1917)に購入しました。

建物は敷地の北側に立ち並び、東から西に主屋、土蔵、新座敷と続きます。

主屋は南に面して建つ木造平屋建の町屋で、屋根は本町通り側一面のみ寄棟造の切妻造で棧瓦葺です。北面は防火壁で蔵造となり白漆喰塗です。

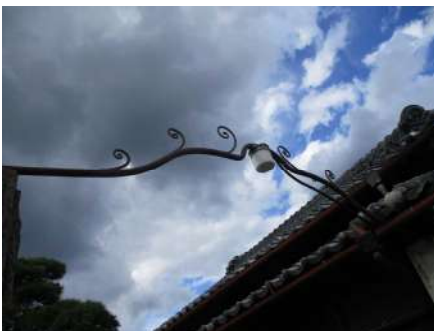
店は街路に面する東側に格子窓を設け、南側下屋に玄関を開いており、本町通りに玄関を設ける一般の町屋とは異なった意匠となっています。



や ね かたち 屋根の形

屋根は、雨や雪、強風や太陽の日差し、気温の変化などから、私たちや家の中のもの、壁などを守るのが役目です。

また、その土地の風土によって、雪に強い形、風に強い形など、さまざまな屋根の形があります。桐生新町の町屋では、切妻屋根や寄棟屋根が多く見られます。



もん
門のデザインがとっても
すてきな。

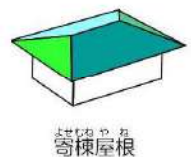


で まど もちおく
出窓の持送りもすてきな
デザイン。

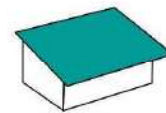
※もちおく…壁や柱に取り付けて、ひさしや
棚などを支える横材。



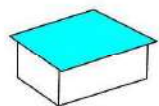
きりまや ね
切妻屋根



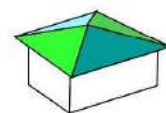
よせむね ね
寄棟屋根



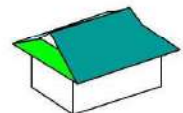
かたなみ ね
片流れ屋根



りく ね
陸屋根



ほうけい ね
方形屋根



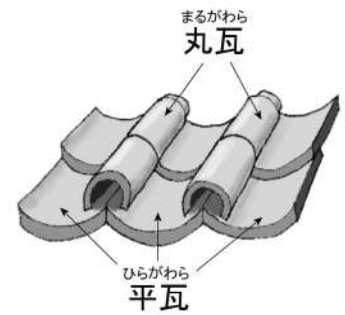
いりもや ね
入母屋屋根

さんかわらぶ 棧瓦葺き

瓦は、洋の東西を問わず、屋根葺き（屋根の表面を覆うこと）に用いられてきました。日本では、約1400年前に飛鳥寺で初めて使われたそうです。当時は、平瓦と丸瓦を交互に組み合わせて並べる葺き方で、「本瓦葺き」といい、主に城郭や寺社建築に用いられてきました。

本瓦葺きは、重厚感がありますが、屋根重量が重くなるのが欠点です。

延宝4年(1674)に瓦職人の西村半兵衛が丸瓦を必要としない「棧瓦」を開発したと言われています。これにより、瓦を用いる量が減り、さらに耐火建築用品として幕府や藩が瓦の使用を奨励するなどしたため、一般にも普及することとなったそうです。



本瓦葺き(ほんかわらぶき)

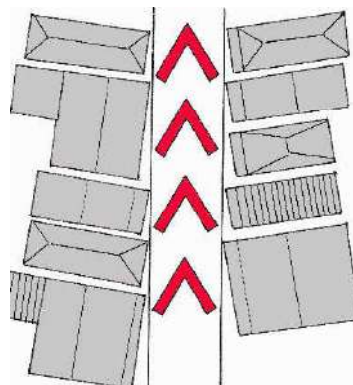


棧瓦葺き(さんかわらぶき)



ねえ、この建物って、道路と平行じゃないでしょう。道路の反対側の建物も同じように少し斜めに建てられているでしょう。

こういう「ハ」の字の形を「雁行」っていうんだけど、これは敷地が斜めになっているからなの。でも、どうして敷地を雁行させたのか、はっきりとはわかっていないの。



きゅう そ が おりもの こうじょう
旧 曾我織物工場

建築年：大正11年（1922）
（国登録有形文化財）

きゅう そ が おりもの こうじょう は、5 連のノコギリ屋根構造で大谷石積、木骨石造となっています。
かくとう ほん えんけい かん きこう た たてもの にしがわ つまぶぶん いし つ まる
各棟には、それぞれ4本の円形の換気塔が建ち、建物西側には妻部分まで石が積まれて丸い
かん きこう もう かくとう ちゅうおう ぶ みなみがわ てつせい そとびらき ど たてなが まど
換気口が設けられています。各棟の中央部と南側には鉄製の外開戸のついた縦長の窓があり
ります。



や ね さんかく かん きこう まる それに まど し かく
屋根の三角と、換気口の丸。それに窓の四角
くみあわ
の組合せが、かっこいいでしょう。



きゅう ひら た しょうてんてん ぼ
旧 平田 商店店舗

建築年：明治33年(1900)

(国登録有形文化財)

初代平田宇八は長野県木曽郡蕨原村の出身で、天保4年(1833)に来往したと伝えられています。嘉永4年(1851)に現在の地で雑貨商を営んでいました。店舗と店蔵は明治31年(1898)の大火の後に建てられたといわれ、土蔵造の防火対策を施した構造となっています。店舗は平入りの町家で、土蔵造2階建、切妻造、棧瓦葺、表に下屋を設けています。店蔵も土蔵造2階建で小さい庇がつき、窓は店舗と同じデザインの両開き塗戸（白漆喰、内面は黒漆喰）です。また、店舗軒先の丸瓦に平田宇八の「宇」の字が印されているのもこの建物の特徴です。



見て！「宇」の字の
丸瓦だよ。



となりの駐車場のすみに、
すてきな彫刻があるよ。



「想い」という題名で、丸尾康弘
さんが2005年につくったって、
書いてあるわ。



なかむら や いちしょうてん
中村弥市商店

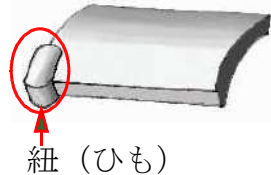
建築年：大正11年(1922)
(国登録有形文化財)

中村家は、明治初期から昭和初期にかけて質屋、米穀商、糸商、戦後から現在の塗装店、塗装業を営んでいます。敷地内には、明治27年(1894)から昭和12年(1937)にかけて建築された、文庫蔵、新座敷、奥座敷、石蔵、浴場、門が配置されています。

中村弥市商店は、間口6間、奥行き40間の敷地割りに対して北側に建物を配置し、北側の壁面が土蔵造となった防火壁を設けています。南側に門、通路を設け、店構えも創建当時の姿を残し、桐生新町の特徴を良好に残しています。



ひものしがわら
紐熨斗瓦

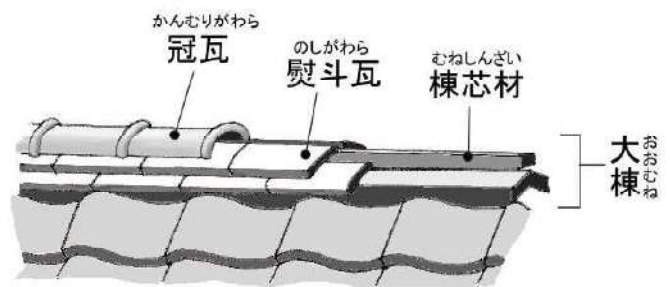


紐 (ひも)

屋根の一番てっぺんにある水平部分を「大棟」と言います。その大棟をつくっている一部が「熨斗瓦」です。瓦と棟だけでは雨水が浸入しやすいため、熨斗瓦を積んで防水性を高めています。

その熨斗瓦の継ぎ目を覆うために「紐」と呼ばれる突起を付けた熨斗瓦を「紐熨斗瓦」と言います。

祝儀袋などの右上にある飾りを「熨斗」と言います。熨斗は、古来より長寿に通じる縁起物とされており、それを紐で結ぶ「紐熨斗」は、とても縁起のよい物なのです。



ひものしがわら
紐熨斗瓦



のしがわら
熨斗瓦

きゅうきたがわおりもの むりんかん
旧 北川織物 (無鄰館)

建築年：工 場・大正 5 年(1916)

事務所・大正 1 0 年(1921)

(国登録有形文化財)

旧北川織物は明治期に創業し、戦前までは織物工場として利用されていました。戦後、機械工場として経営を再開し、平成 1 3 年(2001)から無鄰館と称しアーチストファクトリーとして利用されています。

旧北川織物は、現在、主屋、工場、事務所、蔵、レンガ造の北側防火壁が残されています。レンガ壁は旧女工宿舎のもので、木造部は焼失してしまいました。レンガはイギリス積で、現在は鉄骨による補強を施し、モニュメントとして保存されています。また、多くのノコギリ屋根工場は、均一な自然光を取り入れるために採光面を北側に向けて建てますが、このノコギリ屋根工場は採光面を南東に向けて建てられているのが特徴です。



きゅうきたがわおりもの むりんかん もん
旧北川織物 (無鄰館) の門



そら み
空から見ると、
こんななんだ
って！
ノコギリ屋根
がよく見える
ね。



かい ば どお 買場通り

無鄰館の隣のガソリンスタンドを西に曲がった通りを「買場通り」と呼んでいます。ここは、明治15年(1882)に「七県連合繭生糸織物共進会」が開かれた場所で、その後、桐生物産売買所が設立されて織物製品の取引が行われていました。

買場通りを西に進むと、平成28年(2016)の火災から修復された木造平屋建て二軒長屋(今は「喫茶トアル」)が見えてきます。道路を挟んだ合い向かいには、「桐生市商工業発祥の地」の碑があります。この碑には、「明治16年ここに上市場(買場)が開設された」ということが書かれています。

さらに進むと、左手に旧北川織物のレンガ壁が見えてきます。このレンガ壁は保存のため、鉄骨による補強がなされています。



共進会が行われたころの買場通り

本町通りから見た買場通り
左の角はガソリンスタンド



旧北川織物のレンガ壁



「喫茶トアル」では、野菜のせいろ蒸しなどが食べられます。



もりごう し がいしや
森合資会社

建築年：店 舗 ・ 明治初期

事務所、石蔵・大正 3 年(1914)

(国登録有形文化財)

森家は、明治期から大正期にかけて金融業と土地経営により桐生最大の富豪になりました。政治経済のみならず、教育、文化面においても多大な貢献をしています。明治 37 年(1904)に屋号を森商店から森合資会社へと改め、現在も事務所として活用されています。

事務所は、大正期に建築された当時、貴重であった白磁タイル張りの和洋折衷様式が印象的です。隣接する石蔵は、かつては森家の穀蔵として利用されていました。昭和 36 年(1961)に農機具店、平成 14 年(2002)から現在まで「天然染色研究所」として利用されています。



てんねんそめいろけんきゆうじょ
天然染色研究所

敷地内通路を挟んだ場所の建物
「天然染色研究所」は、事務所と
同じく大正 3 年(1914)に建てら
れた旧穀蔵で石造(溶結凝灰岩)
だけれど、仕上げを白漆喰にし
て土蔵風の外観にしたのね。





もん おく ほそなが いし お
門の奥に細長い石が置いて
あるでしょう。



そ が け じゅうたく にわ
たしか、曾我家住宅の庭にも
おな なが いし
同じような長い石があったよ。



そ が け じゅうたく にわ いし
曾我家住宅の庭にあった石



むかし すい ろ あと
昔の水路の跡。
いま ほ どう
今は歩道になっている。

そう！よく見てたわね。
むかし すい ろ
昔ここに水路がひかれていたのだけれど、
あ いし すい ろ う え お はし やく め
あの石は、水路の上に置かれて橋の役目を
していたそうよ。
すい ろ う しき いし つか
水路が埋められてしまったので、敷石に使
っているのね。



みぎ しゃしん いし かべ
右の写真は、石を壁の
いち ぶ り よう れい
一部に利用している例。



きゅう かぶしきがいしゃかなよしおりのこうじょう
旧 株式会社金芳織物工場 (当初登録:金谷レース工業株式会社)

建築年：鋸屋根工場・大正8年(1919) (国登録有形文化財)

創業は明治初期のころであり、大正8年に鋸屋根工場、事務所、染色場などを建築。事業は順調に推移し、その後全盛期を迎えました。太平洋戦争中は軍需工場として操業し、戦後は金谷工業株式会社として事業を再開、その後金谷レース工業株式会社と改称しました。

現在は、有限会社ルパンに所有権が移り、鋸屋根工場は製パンと飲食の場に改装されています。煉瓦造の鋸屋根工場としては市内で唯一の建物となっていました。当初は6連の屋根でしたが、北側に新工場を建設したため現在は4連になっています。



かなや こうぎょうかぶしきがいしゃ じむしょ
金谷レース工業株式会社事務所

建築年：事務所・昭和初期

(国登録有形文化財)

昭和初期における建造物の全国的な流行にのり、桐生市内でもスクラッチタイルを貼った建物が流行しました。この事務所は木造二階建てのスクラッチタイル貼りで、水平線を強調したライト建築の特徴をもち、特に、窓や細部に至る意匠に時代的な特徴が見られます。事務所と鋸屋根工場を比較してみると、



大正と昭和の時代的流行の違いがよくわかります。



ひだり
左がスクラッチタイル。
みぎ
右がレンガ。

よつじ さいか 四辻の齋嘉

辻とは十字路のことを指しますが、ちょうど桐生新町の起点となった桐生天満宮近くの
交差点の角にあり、古くから桐生の人々に親しまれてきた齋藤織物の経営者であった齋藤家
の本宅の建物のことです（齋嘉とは当主・齋藤嘉平の略）。

（株）桐生再生では、地元桐生でも古くから有名なこの伝統的建造物を購入し、本社敷地内
の象徴的建物として大切にしながら、桐生の産業観光の拠点として活用しています。

「（株）桐生再生公式ホームページ」より



ていそくでんどう
低速電動コミュニティバス
「まゆ」号の車庫があるよ。



まいつきだいいち どうび
毎月第一土曜日には、
かいばさやいち かいさい
「買場紗綾市」が開催
され、おほくひと
多くの人でにぎ
わっています。



てんまんぐうしゃでん 天満宮社殿

(国指定重要文化財)

天満宮の社殿は、県内の江戸時代の社殿建築に多く見られる、本殿が幣殿・拝殿につながった権現造の形式です。

本殿・幣殿は外壁の前面に極彩色の精巧・華麗な彫刻が施されており、内部は同様な彫刻とともに壁画も描かれていて、北関東の近世神社建築の特徴をよく示した優れた建築です。

*幣殿…神社で、参詣者が幣帛(へいはく)をささげる社殿。拝殿と本殿との中間にある。

*幣帛…神社で、神前に供えるものの総称。みてぐら。ぬさ。

*拝殿…神官が祭典を執行したり、参拝者が拝礼したりするための建物。神社本殿の前におかれる。



この牛の像は「撫牛」と言って全国の多くの天満宮にあるよ。自分の体の悪いところと同じ場所を撫でると、よくなるんだって。だから、牛の頭を撫でると、頭がよくなるんだ！



毎月第一土曜日には、「古民具骨董市」が開催されています。





きりゆう てんまんぐう ちょうこく
桐生天満宮は彫刻
もみごとなの。
つくられた当時は、
下の図のように
極彩色だったそ
うよ。



「本殿幣拝殿妻之図」



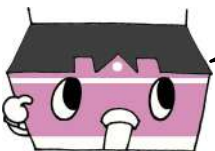
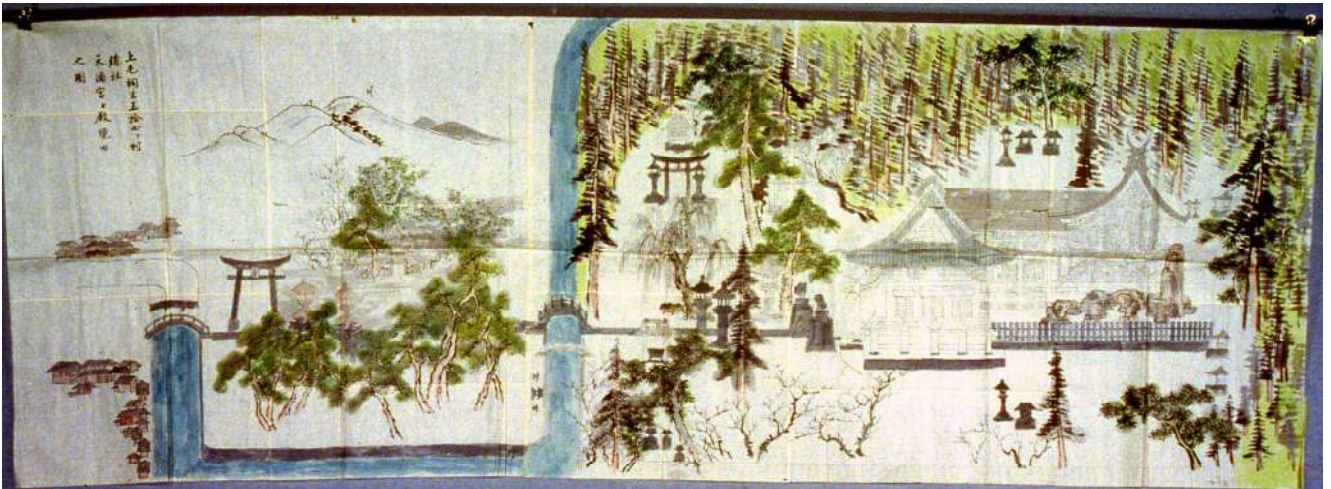
あれっ？あの石、何か文字が書いてある。

あの石は「力石」と言って、
昔、力試しをしたとか、
占いをしたとか、いろんな
説があるの。 力石はほか
にもあるので、探してみて。





あそこに三つ橋があるけど、
つくられた年代が全部違うの。
下の古絵図を見て。
真ん中あたりに描かれてい
るのが、この橋よ。



変な形のベンチがあるよ。



あれは昔、天満宮の大鳥居
のあたりの水路にかかって
いた橋の石よ。
ここの水路は、本町通りの
水路につながっていたの。



じゅうでんけん ち く けんがく さい ちゅう い
重 伝建地区を見学する際の 注意！

- 建造物の多くは個人等が所有・管理し、実際に生活している場所ですので、自由に見学
ができるものではありません。
敷地には無断で入らず、写真撮影等は許可を得てから行ってください。

きりゅう しんまち
桐生新町



じゅう でん けん

重伝建マップ

きりゅう てんまんぐう
桐生天満宮



きゅうかなや
旧金谷レース
(ベーカリーカフェ・レンガ)



おおとり い
大鳥居



もりごう しがいしゃ
森合資会社



かいば だお
買場通り

ほん
本



よつじ さいか
四辻の齋嘉

きゅうきたがわおりもの
旧北川織物
むりんかん
(無鄰館)



ちょう
町



なかむら や いちしょうてん
中村弥市商店



きゅう そ が おりもの こうじょう
旧曾我織物工場



そ が け じゅうたく
曾我家住宅

どお
通



きゅうひら た しょうてん ぼ
旧平田商店店舗



きゅうかきあげしょうてん
旧書上商店
はな
(花のにしはら)

り



きゅう や の くらぐん
旧矢野蔵群
ゆうりんかん
(有鄰館)



や の ほんてん
矢野本店

